

## ネパールが抱える火種：民族、カースト、社会的共生、タライ地域の人々 －国づくりの道しるべは？国際支援のあり方は？－

第12回セミナー「ネパールの平和構築支援にどう取り組むか～社会的共生の実現に向けて～」  
(JICAと共催の平和構築フォーラムにおけるコメント)

マハラジャン、ケシャブ・ラル  
広島大学大学院国際協力研究科 教授

2007年10月10日

### 1. ネパールの現状

高山岳地域、自然と社会生態資源のバランスにこける緊張した関係  
多民族、多言語、多宗教社会、その共生が重要  
立地的地勢、2つの岩石（大国）の間の山芋（小国）、国際関係

### 2. 「火種」の創造

ゴルカ（シャハ）王朝によるネパールの統一化　－ヒンドゥー化始まり  
ゴルカ帝国　－大英帝国、英領インド偏重の外交の始まり  
ネパール王国　－宗教的、民族的、カースト的、言語的「火種」の確立化  
統治上の内部（ラジャ：王一族・親族）と周辺（プラジャ：民百姓、農  
奴、少数民族（多くの少数民族、特にタライの人々はプラジャでもなかった）  
行政上の中央（首都、大都市、駐屯地）と地方  
土地・軍隊の複合体、レイティ（小作・農奴の増大）  
ムルキ・アイン：同一罪異別罰、ラナ専制政治、不信と噂の社会、  
シッディチャラン・シュレスタ「よ　はっらい　はっらこ　でしゅ」  
歴史的「火種」、政治的「火種」、法的「火種」、国際間的「火種」  
宗教的「火種」：（山地）ヒンドゥー至上主義  
言語的「火種」：ネパール語至上主義  
民族的「火種」：バフン、チェトリの優位性、少数民族、低カーストの排除  
経済的「火種」：膨大な貧困層の創造  
地域的「火種」：東高西低、都会と農村、北部山地、南部タライ、中部丘陵地  
男女的「火種」：男尊女卑、その強化

### 3. 「火種」を越える試み

政治的試み：民主化運動（1951年、1989年、2006年）  
政党政治、参加型政治、パンチャヤット、コンGRESS、左派（革新・共産）政治

経済的試み：農業・農村開発、地域開発、持続的開発、参加型開発、1961年パンチャヤット制度の導入、村議会の制定、1964年土地改革、70-80年代にかけての地域開発区の設定、

地域住民的試み：住民のグループ化、組織化、ネットワーク化、90年代以降の動向、CFUGs、アマ・サムハ、利用者組合、生産者組合、民族意的組織

#### 4. ネパールが抱える火種はどうか？

##### 民主化運動1989年の功罪

政治の土台は広がったが、党首一族（グループ）中心の党利党略、政治家の私利私欲が中心の政治が村々まで浸透した

経済も動的になってきたが、結果の平等、セフティーネットによる福祉はさておき機会の平等さえ保障されなかった

従来から存在する「火種」は例外なく増幅された

エンタイトルメントの差が明示的に拡張し、貧富の差が広がり、人々の生活が「こんなはずがない」ほど、実質的にも概念的にもより苦しくなった、海外出稼ぎの増加、食料不足地域の拡大、餓死者、疎外が顕著（少数民族、タライの人々）

疎外され途方にくれたレイティ→プラジャー一人一人が不満をもち、それが一個一個の社会的爆弾となった

#### 5. 最新の動向—社会的共生を求めて？：国づくりの道しるべとして期待をも込めて

国家の再構築の動き：共和制、立憲君主制、連邦制、民族的連邦制、自治、地方主権、政教分離、

市民社会の構築の必要性：基本的人権、市民権、自己実現権、言論の自由、信条の自由、活動の自由、就業の自由、居住の自由、結社の自由

機会平等と結果の不平等を補正する福祉の充実化、

自由と平等、自立と平和的共生の社会の構築

地域住民の組織化、民族・カーストの組織化及びその連合化、

平和的政治・政党の活動の強化、民主主義の強化

プラジャタントラ→ロクタントラ（レイティ→プラジャー→ロク（国民、民主）へ

**Social inclusion=サマベシ（2005年）だれがだれをInclusionするの？**

共生のため地域住民のエンパワーメント、組織化、参加型対応の重要性

#### 6. 国際支援のあり方

人々の尊厳を確保できる生活営みができる自由と平等、自立と平和的共生の社会の構築、それに向けての研究、教育、持続的協力（技術、ノウハウ、財政、モラル）

関心をもち続けること、係わりを持ち続けること